

平成28年度 第3回総合教育会議 会議録

日 時 平成29年2月24日（金）午後3時00分から午後4時30分まで
 場 所 大府市役所5階 委員会室1
 出席者 岡村市長、宮島教育長、西村教育委員、竹中教育委員、河合教育委員、
 浅井教育委員
 企画政策部 企画政策部長、企画政策課長、企画政策課主幹、企画係長、企画係主任
 教育委員会 教育部長、指導主事（2）、学校教育課長、庶務施設係長、学校教育係長、
 学校教育係主査、生涯学習課長、生涯学習係長、放課後係長
 オブザーバー 山内副市長
 公開の可否 公開
 傍聴者数 0人
 議 題 (1) 大府市教育大綱及び大府市教育振興基本計画の策定について
 (2) 平成29年度教育委員会予算について
 (3) 教育懇談会要望事項に対する結果について
 (4) 教員の多忙化解消・貧困対策について
 (5) 子どもの体力テスト・学力テストの結果について
 (6) その他

発言者	要 旨
教育長	<p>第3回総合教育会議を始めます。</p> <p>議事の進行は、大府市総合教育会議運営要綱第4条に基づき、教育長が行うこととなっておりますので、私が、進行役を務めさせていただきます。</p> <p>それでは、次第に沿って進めてまいります。</p> <p>まず始めに、岡村市長から御挨拶をいただきます。</p>
市 長	<p>今日は第3回の総合教育会議ということで、教育委員の皆さんにおかれましては、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>今年度もあとわずかで、今、新年度に向けて、予算について議会で御審議をいただくわけでございますけれども、私が昨年4月に市長に就任させていただき、これまでの教育委員会の進め方を少し変えたことがあれば、一つはICTの導入の関係でございます。今、ICTの導入の関係については、中学校と小学校3年生以上に2人に1台、備えつけをしております。併せまして、電子黒板につきましても、基本的には普通教室、あと特別教室も入っておりますけど、普通教室に1台ということで、大変充実した内容になっておりまして、前市長のときの計画で</p>

発言者	要 旨
	<p> いきますと、さらに新年度に中学生が1人1台、そしてその次の年度ぐらいに、小学校3年生以上に1人1台という計画だったわけでございますけれども、とりあえず来年度は今の状況が続けるという形で予算組みをさせていただきました。というのが、あまりにも急激にタブレットを導入して、現場の先生の方に少し戸惑いがあるということと、併せて、タブレットよりももう少しICT支援員を充実してほしいというご意見もございました。そういう意味で来年度につきましては台数はこれ以上増やさずに、ICT支援員の時間を充実するというかたちで来年度はさせていただきました。それと、文科省の平成28年3月現在の県内の導入状況を見ますと、大府市はダントツでトップです。愛知県だけで見ていると、それほど慌てなくてもダントツで、例えば1学校当たりの電子黒板の数を見ますと、大府市は26.5台なんです。東海市3台、知多市0.2台という状況です。中学校は、教育用コンピューター1台当たりの児童生徒数で、大府市は2.1人、東海市は13.6人、知多市は8.5人という状況で、今でも相当充実していることと、もう少し教え方等を考えていただこうということで、来年度は現状のままとし支援員の時間数を充実させていただきました。もうひとつ、ALTの関係で、学習指導要領改訂で、英語教育が小学校が教科化されるということと、中学校も少し充実されるということで、中学生は英検3級以上について取っていただこうと。今でも7割以上の子が取っていただいています、それをもう少し上げていくということで、3級以上の受験料について全額補助をするとともに、ALTの授業数をもう少し増やさせていただこうと。将来的には小学校も1校1人ぐらいのALTが必要ではないかと考えていまして、英語教育を充実させていただいております。また後ほど担当から話があると思いますが、体力づくりは、大府だけでなく今の子どもたちの大きな課題となっております、小学校からというよりも保育園の時からやっつけようということで、プログラムを作っつけようとしています。また、今日も貧困対策というテーマがありますが、経済的な困窮者にも目を向けて、例えば就学支援の拡充、給付型奨学金の金額拡大等盛り込んでいます。そして、小学校の施設整備について、学校施設が相当老朽化しております、少しこちらの方に力を入れた方がいいのではないかとということで、一番汚いトイレも、今は洋式化が50%ですが、100%にしていきたいなと思っています。そういう意味で教育委員会の担当の方にはたくさんお願いして苦労させてはいますが、施設整備もやっていきたいと思っています。そのための組織改正ということで、4月から教育委員会につきましては、基本的には学校教育と放課後関係を専門にやっていただき、生涯学習・公民館については市長部局の方で4月からやっていくということを今考えています。色々私なりに去年とは少し違った形で進めさせていただきますけれども、またご意見等いただければ大変ありがたいなと思います。あと、教育委員会が抱えている先生の多忙化の問題はこれから大きな </p>

発言者	要 旨
	<p>課題ですし、通学路の問題とか、たくさんありますので、将来を担う子どもたちのために環境を整えていきたいと考えていますので今後ともよろしく願いいたします。以上です。</p>
<p>教育長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では開会に当たり、私からも一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>教育の不易と流行という言葉がよく使われています。まさにそのとおりでして、守りとおさなければならないことと、時代に応じて新たな子どもの教育を進めるということと両方あるかと思えます。先日、新しい学習指導要領の案が発表されました。この新聞発表を見て、現場の教師たちが、新しい時代が来るんだと意気盛んな思いを抱いたかというところとそうではなかろうと受けとめています。先日も大府市の教員研究発表会の折に、深く共感しつつ教育行政を進めさせていただきますと、先生方にはお話をしましたが、先ほど市長さんのお話の中にも出ました、多忙化に拍車をかける部分もあると。それから、大府市がいち早くICTを導入しておりますが、その先には文科省が唱えるプログラミング学習が入ってきます。私などは携帯電話の操作をするだけでも、あちらこちら間違えてどうしたものかと思っておりますが、これから生きていく子どもたちは、プログラムもコンピューターで作っていくことができる子にするんだ、ということですね。大変望ましいことだと思います。英語教育にしても、心の教育にしても望ましいんですが、一体限られた時間の中のどこでそれを進めるのだろうかという大きな課題を抱えることになりました。学習指導要領は法的拘束力を持っており、全国一律です。だから、日本の教育の均質化が図られているとも言えるんですが、教育委員会としてはその意向を受けて、教育行政を進めていくんですが、やはり現場の状況をくみ取って進めていくことが、進め方としても大事なところで、どのように進めるかは今大きな課題で抱えております。いずれにしても、市長さんはじめ、市長部局も大変教育についても改善改革ということで、今いろんなこととお話いただきましたが、思いを持っていただいておりますので、ともに手を携えて、バランスある教育を進めていきたいと、そんな願いでおります。</p> <p>今日も皆さんどうぞよろしく申し上げます。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、次第の「2 議題」に入ります。</p> <p>(1)「大府市教育大綱及び大府市教育振興基本計画の策定について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>学校教育課 学校教育係長</p>	<p>(1)「大府市教育大綱及び大府市教育振興基本計画の策定について」を説明いたします。(以下、資料により説明)</p>

発言者	要 旨
教育長	それでは、委員の皆さんから何か御質問等いただければと思います。
河合委員	はい。
教育長	河合委員、お願いします。
河合委員	<p>はい。タイムスケジュールを見ますと、この総合教育会議で確認、また定例教育委員会承認となっていますので、余分なこともかもしれませんが少しお話ししたいということがあります。</p> <p>一つは、言葉の使い方の問題でございまして、「先生」と「教職員」という言葉、また「子ども」と「児童生徒」というようなこと、例えば6ページの(6)豊かな学びを支える教育環境を充実しますというところ。説明の本文には「教員の資質能力」という形で「教員」という言葉が使われていますが、施策のところは「教職員の資質向上」になっています。私は、ここは「教員」ではなくて「教職員」という言葉を意識的に使うということが大事かと思っています。先般もチーム学校ということを申し上げましたが、どこにもその言葉が無い。入れるとしたら、これは言葉だけの問題ではなくて、今そういう状況にはあるということ、私たちが認識しているという表明でもあろうかと思っています。例えば21ページの最初の上のほうの段落で、ここでは組織とかチームという考え方が学校という場の中にとどまっている。チーム学校というのは皆さん御存じのように、社会とか、行政そのもの、それから保護者、そういう周りのものと深く関わって、教育というものを進めていかなきゃならない。少し前の管理職というのは、学校だけで完結するという考え方を持っているのがたくさんおりました。しかし、現在では、そういう考え方をする管理職はほとんどいないだろうと思います。もっと、その考え方を広げていくためには、例えば2行目の「学校としての教育力」というところでは、チームとしての学校、チームとしての学校の教育力という形で、是非このところに、そういう考えを入れていただきたいと思います。</p> <p>それから2点目、アクティブラーニングという言葉があります。この言葉はそれでいいわけですが、報道で御存じのように、文科省は夏頃のまとめを出した頃からこの言葉の使い方を危うんでいる。つまり、また活動主義の学習活動に戻ってくる。これが一番心配です。ですから、例えばICTで市長さんからお話があったんですけど、例えば12ページを開いていただきたいと思いますが、このアクティブラーニングという言葉が出てくるところで、「主体的・協働的な学び」という、これはわからないではないんですが、ここに文科省が使っている「主体的・対話的で深い学び」、この公式用語を文言として使うべきだろうというのが、私の考え方です。</p> <p>大綱のところに非常に大事なことが書いてあります。先般にも申し上げました</p>

発言者	要 旨
	<p>が、今、教育が変わりつつあるが何を変えようとしているのか。それは子どもたちの学びの質を変えていく。それについて大きく色んなことが出てくるわけですが、この大綱の基本理念のところ「学びの質や深まりを重視する」といういい言葉が最初に使われているんです。私は、ここは大変大事だと思っておるんですが、是非、22ページの最初に出てくるときに、やっぱり文科省が使っている「主体的・対話的で深い学び」でアクティブラーニングとしたほうがいいのではないかと私は思っております。文言について私たちはそういうことを意識しながら作っているんだと、そんなことを思っております。以上です。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。この件に関連して何かいかがですか。</p>
	<p>(な し)</p>
教育長	<p>大変貴重な御意見をいただきました。</p> <p>3点あったかと思いますが、まず6ページに代表されるように、「教員」という言葉がある。そして施策の中に「教職員」とある。これがきちんと精査されているのかどうかという御指摘でした。最終教育委員会で決定をされますので、それまでに事務局のほうで検討するというところでよろしいでしょうか。</p> <p>続いて2点目ですが、チーム学校という言葉は既に文科省からも打ち出されており、学校現場でも発信をされております。言葉が登場してこないというのは、言葉だけの問題ではなくて、学校のあり方・有り様を目指すところと関わることだという御指摘をいただきました。チーム学校についても、例で挙げていただきましたが、22ページの例えば2行目にそういう表現ができるのではないかと御指摘でした。これについても、事務局のほうで検討をしていきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。</p> <p>それから3点目ですが、先日の新聞発表新しい学習指導要領案が出ましたが、案が出るまでは、日本中が既に文科省のほうから先頭切ってアクティブラーニングという用語が発信されておりましたので、日本中がまさか消えているとは思わなかったというのが新聞発表だったと思います。とりわけアクティブラーニングについては、机に向かっているだけの勉強でいいのかということで、高校に強く発信をされておりましたが、消えました。新聞の解説によれば、アクティブラーニングという言葉はいろんな大儀の意味を持つと。そこで登場してきた用語が、今河合委員が出していただいた「主体的・対話的で深い学び」ということで、これで、これからの日本の教育が統一された扱いでいこうと思っておりますので、この大府市の計画についても、アクティブラーニングをその言葉に置きかえていく必要があると思っておりますので、これについても改めて事務局のほうで検討していただくということでよろしいでしょうか。</p>

発言者	要 旨
教育長	その他いかがでしょうか。
河合委員	よろしいでしょうか。
教育長	河合委員、お願いします。
河合委員	細かいことですが、16 ページの (2) 体力づくりの推進で、先ほど市長さんの話を聞きながら思ったんですが、7 行目に「そのため、新学習指導要領の趣旨を活かした」とありますが、この「新」というのは次期の学習指導要領を言っているのか、現行の学習指導要領のことを言っているのかわからないので、私としては、ここはあまり詮索する必要もありませんから、「新」を取ったほうが無難ではないかと思った次第であります。以上です。
教育長	はい、ありがとうございました。 この基本計画が 2017 年から 2020 年までに渡ります。これから出てくる学習指導要領を新しいといえ、今の時点では新しいんですが、2017 年から 2020 年の間には新しい学習指導要領ではなくて、当然のごとく国の学習指導要領となりますので、的確な御判断だと思いますが、いかがでしょうか。
	(な し)
教育長	はい、ありがとうございました。 他にも登場するかもしれませんので、再確認させていただいて、学習指導要領については全て「新」は付けないということできたいと思います。 その他いかがでしょうか。
教育長	続きまして、(2) 「平成 29 年度教育委員会予算について」事務局から説明をお願いします。
学校教育課長	(2) 「平成 29 年度教育委員会予算について (学校教育課分)」を説明いたします。(以下、資料により説明)
生涯学習課長	(2) 「平成 29 年度教育委員会予算について (生涯学習課分)」を説明いたします。(以下、資料により説明)
教育長	それでは、御質問等いただければと思います。

発言者	要 旨
浅井委員	はい。
教育長	浅井委員、お願いします。
浅井委員	<p>先ほど岡村市長の御挨拶の中で、タブレット追加は一旦押さえて、他のことに予算を振り分けるという、これは非常に利にかなっていると思います。予算というのは限られていますから、費用対効果を考えてできる限り安いお金で教育をするというのは大事だと思います。今回電子黒板・タブレットという言葉がICTの中でよく出てきましたが、教育委員会が越前市に研修に行った際に、越前市の方が「これはいいよ」と我々に言ってきたのが書画カメラです。例えば、今まで算数とかで黒板に書かせる、タブレットに書かせる。そうじゃなくて、自分のノートを持ってこさせて書画カメラのところにポンとおいてその問題を解かせる。そうすると、自分のノートがみんなの目に触れるわけですから、みんなやっぱり自分が当てられるかもわからないとって、めちゃくちゃなノートをそこにぼんと出したらクラス中の方が自分のノートがそうだとわかって恥ずかしいから、みんな頑張ってきれいに書くようになる。ですから、ICTに関しては多分台数については言っていると思うんですが、書画カメラの価値を現場の教員の人たちにも上からきちっとこれは非常にすばらしく効率がいいということを、福井県越前市の方が言っていたという、そういう先例のあることをお伝えしていただきたいのと、あと、私が前回学校訪問で感じたことなんですが、中学校の英語の学び方は色んな学び方がありますが、昔ながらの、先生がいわゆるリピートアフターミーみたいな感じで繰り返すというのは、英語の成績を上げる上でも、とても大事だと思うんですが、ある先生がきれいにリピートアフターミーと言って、その後で電子黒板をポンとたたくと、デジタル教科書のネイティブの発音の流れで、先生と生徒と一緒に読んでいるという、非常にいいテンポでやられる先生がいらっしゃって、これはすばらしいと。比べてはいけないかもしれませんが、ALTの先生をお願いする1番の理由は、ネイティブの発音を聞く・身につける、そういうようなことがありますから、ALTの先生の数が多いに越したことはないんですけど、すこし少なくともデジタル教科書をうまく使えば対処できるのではないかと思います。さきほどの越前市もデジタル教科書はうまく使えば、思ったよりうまく使えると言って、デジタル教科書は維持費がとても高いというのが弱点だと思うんですが、前々回ぐらいですか、教育委員会で倉敷に研修に行ったときは、倉敷は維持費がかかりすぎるのでデジタル教科書を減らしているというお話を伺ったので、越前市に伺ったら、うちの場合はそんなに予算がある訳でもないから、最初に1教科だけ入れる。それでみんなが馴染んでから、これはいけるということで増やした。今後どうするんですかと聞いたら、今後も増やす予定ですと。予算がかかるんだけど効果はある。特に一見すると無意味のよ</p>

発言者	要 旨
	<p>うな、例えば技術とか被服、あの辺りもうまく使うと、とても効率がいいので越前市としては今後もデジタル教科書は増やしていくとか充実させていく予定ですというお話をしておりましたので、デジタル教科書も結構維持にお金がかかると思いますが、今後とも、御理解よろしくお願いたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、ありがとうございました。 書画カメラとデジタル教科書の使用状況、それから今後の見通しみたいところを事務局から話をさせていただけるでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>それではまず機器の導入については、現在のところ、電子黒板と書画カメラはセットで導入しておりますので、電子黒板の下に書画カメラついてそういう状況ですので、電子黒板が入ったっていうのであれば、同時に書画カメラもついておりますので、その点については、普通教室とあとと一部の特別教室の中に入れてありますので、これは台数の面では大丈夫だと思っております。</p>
<p>指導主事</p>	<p>電子教科書についてですけども、小中学校ともに準拠な教科書については導入されております。活用の仕方については、先ほどお話のあったように、いわゆる繰り返し練習をして修得していく場面では、実際の発音を聞きながらやるというのは、ALTを活用といっても人数としては1人ですので、同じ時間帯にやって頂けるのは1人だけですから、それ以外の場所でやっている授業については、お話のあったような仕方で練習をしていく。それから、実際にALTがみえる時には、生身の人間だからこそできる、その場での応答の練習をやっていけるように、活用の仕方については、職員の方もまだまだ学んでいく部分もあると思いますので、そのようなところを今後も研修を積んでいきたいと思っております。</p>
<p>浅井委員</p>	<p>ありがとうございました。 最後に、越前市にタブレットというのは必要なんでしょうかと伺ったところ、タブレットがあれば、それはすばらしいんだけど、予算の都合上、全員に回すことは難しい。ですから、越前市の考え方は同じ方向から見える。だから、1台につき4人の場合だと逆方向からみることになるから、タブレットが有効的に活用できなかった。だから、できれば2人に1台で、そうでなければ3人に1台までであれば、タブレットの有効性は活かせるんじゃないかという回答をいただきましたので、それも一応参考のために述べさせていただきました。</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、ありがとうございました。 昨年の秋の教育についての意見交換会の折にも教員代表の方々は、現行の2台、2人で1台という形で、現状では十分やっていますというお話で、今回の</p>

発言者	要 旨
	<p>支援員の時間数の増というところにつながっていると思います。</p> <p>それからデジタル教科書ですが、これで学習指導要領が確定して、今後の予定では、2019年にまず小学校の教科書の採択があります。このときに教科書が変わりますから、2020年から本格的に新しい学習指導要領、新しい教科書で動きますので、その時にかなりの費用が要ることになるかと思えます。続いて翌年は中学校が変わります。ただ、いま前倒しで来年度あたりから道徳の教科化、英語学習が本格的に始まっていくという状況になっております。デジタル教科書にはかなり費用がかかりますので、またそのあたりが大変ではあるかと思えます。</p>
河合委員	はい。
教育長	河合委員、お願いします。
河合委員	<p>私ども、昨年の予算要望委員会に出席させていただいております。私はこれを見せていただいて、教育委員会事務局の皆さん方が、財政当局とやり合って、随分頑張らせていただいたという思いを持っているわけでありまして。私は全校を関知しているわけでありませんが、出席したところであれば、各校長先生方の要望を目いっぱい頑張って、限られた予算を使ってくださっているなど思っている次第でございます。何よりうれしかったのは、例えば石ヶ瀬小学校の交流事業に今まで市が補助金を出していない。私は現職の頃から聞いていると、費用は先生方の負担だとか保護者の負担とかで、一方で教育委員会は特色ある学校づくりを推進しながら、やれやれと言いながら、こうしたきちっとした事業にお金を使っていない。今回初めて交流事業に対してお金を出す。つまり、先ほど教育長さんがおっしゃった、これからの英語教育について、新しい形で交流している石ヶ瀬小学校が一つのモデルとして、この交流事業の中で考えていってくださるということは、広く大府市の英語教育の底上げにもなっていくので、是非こういう特色ある事業に対しては、そういう目を持っているということのアピールすることは大変大事だなと私は思いました。以上です。</p>
教育長	はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。
教育部長	はい。
教育長	はい、内藤部長、お願いします。
教育部長	<p>予算の配分等につきましては、私どもとしましては例年以上に頑張ったということではなく毎年頑張りを続けております。その中でやはり財政当局と対立構図で</p>

発言者	要 旨
	<p>はなくて、限られた予算をより有効に配分していただきたいという中で、同じ方向へ進んでいくというところで、市長さんも変わられた中であって、例年以上に御理解いただいた部分があるということで、現場としては校長も含めて大変感謝をしておりますということを申し添えさせていただきます。決して対立した中でやり合っているということではございませんのでよろしくお願いいたします。</p>
教育長	はい。その他いかがでしょうか。
	(な し)
教育長	<p>はい、ありがとうございます。次へ進みたいと思います。 続きまして、(3)「教育懇談会要望事項に対する結果について」事務局から説明をお願いします。</p>
学校教育課長	(3)「教育懇談会要望事項に対する結果について」を説明いたします。(以下、資料により説明)
教育長	はい。この件につきましていかがでしょうか。
浅井委員	はい。
教育長	浅井委員、お願いします。
浅井委員	<p>資料 3-3 学校施設関係の 2 ページ目の共長小学校のところですが、私、たしか以前の教育委員会で共長小学校の校区は、人数が増えているので、校舎が足りなくなるという話を伺った記憶があるのですが、そうすると、どこかに校舎を建てなきゃいけないとか体育館を利用して何かしなきゃいけない。そのときにこの共長小学校の 1 番の運動場の全面改修とか、せっかく改修して、またそこに校舎を建てるとか、そういうことにならないように、一応長期的なビジョンとバッティングしないように、できるだけ予算を使っていただきたいと思いました。</p>
教育長	そのあたりについて見通し等をお願いします。
学校教育課長	<p>共長小学校につきましては、このままいくと平成 33 年か 34 年のあたりで、教室が足りなくなってくる可能性があるということで、毎年 2 回、児童生徒数推計というのをやっておりまして、そのあたりで校舎の改修等が必要となってくるというところがありまして、実際にやり方については、仮設の校舎を建てたりとか</p>

発言者	要 旨
	<p>して、その間に校舎を建て直すということも考えておりますけど、やり方については、例えば仮の校舎をどこに建てるかということについて、まだ検討中でございます。校庭になるのか、それとも裏の駐車場あたりに建てられるのかということは、まだ検討中でございますということでお願いいたします。</p>
浅井委員	<p>ありがとうございます。</p>
教育長	<p>はい、よろしいでしょうか。 その他いかがでしょうか。どんなことでも結構です。よろしいでしょうか。</p>
	<p>(な し)</p>
教育長	<p>はい、次へ進みたいと思います。 続きまして、(4)「教員の多忙化解消・貧困対策について」事務局から説明をお願いします。</p>
指導主事	<p>(4)「教員の多忙化解消・貧困対策について」を説明いたします。(以下、資料により説明)</p>
教育長	<p>いかがでしょうか。</p>
浅井委員	<p>はい。</p>
教育長	<p>浅井委員、お願いします。</p>
浅井委員	<p>資料の9ページを見ると、教員の多忙化の理由の一つというのが、1番上にまず、日本の教員の勤務時間が長い理由は課外活動、スポーツ・文化活動の指導時間が長いと、あと(5)で、中学校・高校では、部活動指導が大きな要因と書いてありますが、私たちが小さかった頃は、私は卓球部だったんですが、顧問の先生が練習に来たことなんてほとんどなかった。だけど今は責任問題で必ず顧問が行かなきゃいけない。だから私は一度教育委員会で、その時間に先生は仕事をやっていけばいいんじゃないですかと言ったら、現場にいないことには何かあったときに責任がとれないという話を伺って、そういうものかと思ったんですが、それを冷静に考えれば、例えば、運動場に1人先生を置いて、体育館に1人先生を置いて、その先生に一応全種目の監督をお願いすると。実際の話、そんなにやることはないと思うんです。野球部とかでノックをしなきゃいけないというのは別として、通常の練習であればできるだけ生徒の自主性を重んじて、顧問の先生は練</p>

発言者	要 旨
	<p>習の仕方とかをある程度アドバイスするけれど、あとは生徒の自主性に任せて、運動場と体育館に1人ぐらいずつ先生をつけておいて交互にやって、1週間とか2週間に1回、監督の日にすれば、1人いれば責任は回避できるのではないのかなと思いましたが、あと、可能性としては例えば地域のボランティアを利用ということもありましたけれど、顧問の先生がそのスポーツに対してとても造詣が深いというわけではない場合も結構多いと思いますので、シルバーさんとかそういう人がいたら、お願いするとか、そういう方法もあると思いました。</p> <p>先ほど、簡単にやめるのはよくないとおっしゃっている、その気持ちもとてもよくわかるんですが、やはり多忙化解消のためには、省略とは言わないですが、簡略化できるものがあれば、徹底的に簡略して効率をアップしていくということも必要だと思います。もう1点、じっくりと進めていきたいという言葉在先ほど指導主事さんがおっしゃったんですが、これは早急に進めるべきことではないかと私は感じました。現場で働いている先生にとっては、今がとても負担が多いということですから、例えば、今、私が言ったような1人の監督で済むものであれば、幾つかの部活を1人の先生が順番に、運動場に1人座っているよっていうぐらいで、何か目に見える、これは楽になったっていうものが先生にあれば、市のほうも真面目に我々の多忙化を考えていると教職員の方、皆さんの理解も得やすいと思いますので、できれば早急に、実際に労働時間が短くなるようなことを提案・企画していただけるとありがたいなと思いました。</p>
教育長	はい、ありがとうございます。この件について事務局から何かあればですが、いかがでしょうか。
市長	部活動で先程地域の方を指導者という話が出ましたが規制があるのですか。学校の先生でないといけないとか、その間に学校の先生がいけないとか、あと、随行で試合のときに先生がついていかななくてはいけないという話を聞いたんですけど、そのあたりはどうですか。
指導主事	まず、外部指導者については特に資格とかありませんので、やっていただける方で、気のある方なら結構かと思えますし、先ほど、浅井委員さんも言われましたように、なかなか今事故が起こったときの教員の管理責任というものが厳しくなっている面はありますので、条件としては難しくなっている面はあります。練習試合などで参加させるときも、教員は駅で見送って荷物を積んで車で行くようなこともありますけども、列車の中で子どもが騒いだというような苦情も結構ありますので、なかなか難しいことはあるかなと思います。
教育長	はい、ありがとうございます。

発言者	要 旨
	<p>まるっきり外部指導者に丸投げはできないという状況です。あくまでも学校の教員が部活の指導者と位置づいて技術指導等で、外部指導者に入っていただくというところが原則かなと思います。それから浅井委員の1人がグラウンドを見渡してというのも一つの御提案だなと思いますので、また学校のほうにも出してみますが、技術指導になっていくとそれぞれがありますので、朝部等では朝の基本トレーニングでやるところも多いので、そういう活用もできるのかもしれないと思いつながらお聞きしました。</p> <p>あと現状では、この先ですが、先日も中学校の4校長を代表して御意見をいただきました。今、県のプロジェクトのほうで、部活の時間の規制をかける方向でありますが、大府市としても、例えば、1週間の間に2日は休ませ部活動はしない。そのうちの1日は土曜日か日曜日。試合等で土曜日か日曜日にやれば振り替えをつくって、1週間の間で2日休ませる。それから大府市の中学校長からの提案は、6月7月の最も暑い時期に早朝といえども、かなりの汗をかく時間なので、6月7月の朝部は実施しないと。その分日が長いので、午後の部活で頑張ると、そういう方向で提案がありましたので、今、教育委員会のほうで検討しているというところです。補足でした。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p>
	(な し)
教育長	<p>はい、次へ進みたいと思います。</p> <p>続きまして、(5)「子どもの体力テスト・学力テストの結果について」事務局から説明をお願いします。</p>
指導主事	<p>(5)「子どもの体力テスト・学力テストの結果について」を説明いたします。</p> <p>(以下、資料により説明)</p>
教育長	<p>体力と学力について説明をしてもらいました。御意見・御質問等あれば入ってからでしょうか。</p>
竹中委員	はい。
教育長	はい、竹中委員、お願いします。
竹中委員	<p>部活動のあり方を多忙化解消とかの問題で先生方の多忙化を防ぐために、少しでも部活動のあり方を考えようってなっていた問題と、ここで今度は運動能力がこういう状態なの部活動などを生かそうという、非常に難しい二つの事柄がある</p>

発言者	要 旨
	<p>と思います。さっき言いそびれてしまいましたけれども、実態を踏まえ、調べたら多分先生方が非常にオーバーワークであるということは、実態を調べる前からわかっているような気がしまして、それで部活動をどうするかというあり方を考えることの一つの方向性として、やっぱり健康志向ということで、運動とか、体力の問題を考えれば、今、普通の大人たちが健康志向に非常に走っていて、学校へ徒歩で通学することだけであっても、例えば歩き方であるとか、自転車通学を止めて歩いてみるとかそういう一つ一つの細かい事柄が全て健康志向ということにつながっていれば、部活動のあり方もそこまでやらなくてもということで、健康を目指す為の部活動みたいな形でやっていけば先生方が、多分化から解消されるような方向にいくんじゃないかと。この体力の調査と、そういう部活動のあり方とコラボで考えたらいんじゃないかなと感じました。以上です。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。この件で何かありましたら、いいですかね。その他、何でも結構ですがいかがですか。</p>
	<p>(な し)</p>
教育長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>中学校も教員によって部活に対する温度差といいますか。考え方が異なるところもあるところが、中学校を納めていく管理職の悩みでもあるということでお聞きしております。御提案をいただいた健康志向という観点でもう一度部活道をとらえ直そうという御意見をいただきましてありがとうございました。</p> <p>最後に、(6) その他になります。委員の皆さんから何か御意見、御提案、どんな角度からでも出していただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
	<p>(な し)</p>
教育長	<p>事務局から何かあればお願いします。</p>
学校教育課 庶務施設係長	<p>次年度の年間のスケジュールにつきましては、後日、配付させていただきますのでよろしくお願いいいたします。</p>
教育長	<p>それではこれをもちまして第3回総合教育会議を閉じさせていただきます。お疲れさまでした。</p>